

「浦添市公園まちづくり研究会 経塚公園 公民連携部会（第2回）・ワーキング」開催概要

浦添市では、令和元年10月に開業しました沖縄都市モノレール沿線地区において、「浦添市の顔づくり」を推進しており、新駅に隣接する経塚公園等の公共空間を対象に公民連携（PPP）及び市民協働を検討する「浦添市公園まちづくり研究会」を主催しております。

これまで浦添市公園まちづくり研究会において、P-PFI（公募設置管理制度）による公募対象施設の設置、特定公園施設の整備、指定管理や様々な公園活用イベントなどの取組みに対して、多くの沖縄県内外の事業者の皆さまからご意見やご提案をいただいております。

昨年度、沖縄都市モノレール新駅（経塚駅）に隣接し、広場と併せて整備を進めている「経塚公園（約2ha、一部造成工事着手）及び、その周辺地域の公共空間を含めたP-PFI、パークマネジメントに関して民間事業者へのマーケットサウンディングを実施しました。当時のサウンディング結果及び市民協働部会における検討内容、本市の施策等を総合的に判断し、今後の経塚公園の方針を「地域の健康づくり及び市民の健康増進の機能を備えたまちづくりに資する公園」と定めることにいたしました。

浦添市では、この方針に基づき公民連携部会において民間事業者との対話を行い、令和3年度には経塚公園におけるP-PFI等の公募条件を決定し、公園施設設置予定事業者等を募集することにいたします。

令和3年2月2日には、オンライン（ZOOM）とリアル会場の併用で、公民連携部会（第2回）、及びワーキングを開催しました。第1部の公民連携部会（第2回）では、浦添市より昨年度のサウンディング結果や経塚公園のP-PFI公募要項（案）の説明、沖縄振興開発金融公庫より資金調達方法に関するセミナー講演が行われました。第2部のワーキングは「公園健康機能とそれを補完する景観、緑、食、文化、防災、観光、賑わい、遊具等の機能連携」をテーマに、6社より提案発表をいただき、意見交換、マッチングの機会としました。

開催日時：令和3年2月2日（火） 14時～17時

第1部 公民連携部会：説明会、セミナー 14時00分～14時40分

第2部 ワーキング説明とワーキング 1 14時50分～17時

会 場：オンライン（ZOOM）とリアル会場での併用（ハイブリッド）方式

現地会場：アイム・ユニバース てだこホール 多目的室 2

市民協働部会聴講会場：結のまち

参加者数：第1部 72名、第2部 66名

（てだこホール 第1部 9名、第2部 9名）

（オンライン 第1部 57名、第2部 51名）

（結のまち 第1部 6名、第2部 6名）



今後も継続し、浦添市公園まちづくり研究会における取り組みを進めていく予定です。今後ともご協力等よろしくお願いいたします。

【第1部】

◇浦添市公園まちづくり概要、経塚公園方針、P-PFI 公募等説明

『研究型及び個別対話サウンディングの結果の公表について』（R2.1.7 浦添市）より抜粋

6. サウンディング結果を踏まえた今後の方針

令和元年度の提案に関しては、経塚公園の立地条件、周辺環境、当該公園の役割等を考慮すると実現不可能な提案も見受けられたことから、経塚公園に適した提案内容に絞り込む必要があります。

今後、経塚公園の方向性に関しては、地域の健康づくり及び市民の健康増進の機能を備えたまちづくりに資する公園と定めることで、当該公園における公募設置管理制度(Park-PFI)の実現化に向け検討してまいります。

なお、経塚公園において実現化が困難な提案に関しては様々な課題はあるものの、今後、本市内の他の公園等において継続的に事業化に向け検討してまいります。



◇セミナー「知って得する！資金調達方法

～創業資金融資を参考にした金融機関の審査担当者の考え方～

沖縄振興開発金融公庫 調査部 地域連携情報室 室長 伊志嶺 朝彦 氏

事業計画作成のポイントや公庫融資制度についてご説明いただきました。



【第2部】ワーキング

◇研究会（公民連携部会・ワーキング）の活用説明

株式会社新産業文化創出研究所 所長 廣常啓一



◇ワーキング

ファシリテート：株式会社新産業文化創出研究所 所長 廣常啓一

(発表1) 「つながり」が生まれる公園 ～地域の健康を高める公園づくり～

医療法人オレンジホームケアクリニック 紅谷浩之氏・西出慎吾氏

「孤独」が健康を阻害するという研究がすすみ、「つながり」づくりが個人の健康だけでなく、地域の健康作りにおいても重要であることが分かってきた。そもそも公園は様々な人が集い、交流を深める拠点である。まさに、「つながり」を作る拠点としての親和性は高い。

今回、「医療」「食事」「運動」を健康事業として展開しつつ、地域住民及び観光客等の「つながり」を創出する公園作りを目指している。つながりを生み出す公園は、地域の健康度を高め、幸福度さえも高める拠点になる可能性を秘めている。

健康長寿・ブルーゾーンであった沖縄から、公園を活用した新しい健康作りについて全国・全世界へ発信していきたい。



(発表2) 地域住民参加による健康づくりを実践できる地域拠点としての健康公園

一般社団法人食の拠点推進機構／一般社団法人日施設管理運営協会

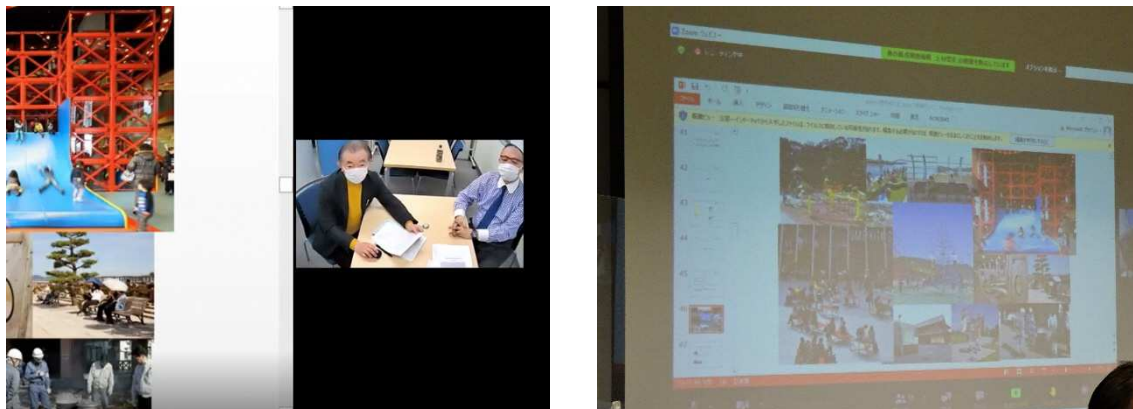
理事長 上村 章文氏

基本コンセプト

- ☐健康と食をテーマにした住民参加によるイベント
- ☐健康機器・遊具による持続的な健康づくり
- ☐公園の広場を活用した屋外ヨガなどの健康イベント
- ☐健康ビジネスのスタートアップ支援
- ☐食とエクササイズの複合化したウェルネスプログラムの実施
- ☐個人個人の健康状況に応じて、パーソナライズされたレシピ開発
- ☐収益性のある商業施設として地域住民のニーズに対応したコンビニ等を整備

「琉球庭園都市」のコンセプトに沿って、建築家、造園などの専門家の参画により、アート志向で琉球文化にリスペクトした意匠による魅力的な施設整備と

緑化・造園を行います。



(発表3) 浦添琉球庭園×ボタニカルガーデンパークプロジェクト

一般社団法人食の風 代表理事 田崎 聡氏

琉球王朝時代、百浦添の地は薬用作物歴史ある地として知られています。そんな琉球には様々な薬用植物が植生され、その多様性は、亜熱帯気候による島嶼性が産みだした独特な地域性によるものです。ウコンをはじめ、月桃、桑、ヨモギ、リュウキュウヒレサンショウ、ニガナ、シークワサーなど多種に渡る薬草が栽培され、今も自生しています。また、王朝時代、唐から渡嘉敷通貫親雲上が琉球に伝導した「御膳本草」に記載されている薬膳のノウハウには素晴らしいものがあります。こうした薬用作物を使って「医食同源の島」＝沖縄＝浦添ならではのこのプロジェクトを成功させることで、「市民の健康」を目的とした「健康な食と農のある楽しい公園」をめざします。



(発表4) 住む人が心地よく訪れる人が楽しい緑のあるまちづくり

～浦添市から広がる琉球の庭園都市～

カゼモニワ 代表 多田 弘氏

緑と一言と言っても、それぞれの場所によってデザインの在り方が違います。沖縄の独特の美しさを引き立てる、街に合った植栽デザインの提案をしたいと思っています。



(発表5) カフェメニューへの自家焙煎珈琲の提案

K's coffee 廣田 香氏

○カフェメニューへの自家焙煎珈琲の提案

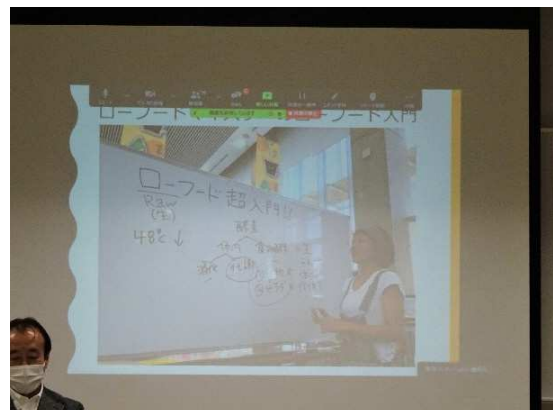
- ・ 浦添市内業者のため、いつでも新鮮で美味しい珈琲豆を納品可能。
- ・ 「公園オリジナルブレンドコーヒー」等の商品開発。
- ・ オリジナルの商品がお土産として利用されれば観光へも繋がる。

○イベント・ワークショップの実施について

- ・ レンタルスペースを利用してワークショップを開講する方が多い。

浦添市内の事業者が中心となって開催している「浦添まちゼミ」では毎年 30～40 の講座が講されており市民の参加も増えてきている。店舗を構えていない事業者やハンドメイド作家さんには公園などの公共施設利用希望者は多い。講座の内容としては健康、美容、食育、子育てハンドメイド等多岐にわたり受講者の年齢層も幅広いので市民の公園利用にも繋がる。

やつ作り教室



(発表6) 琉球庭園都市に浮遊する経塚テラス

株式会社森下建築総研 代表 森下 修氏

経塚公園のランドスケープとそして琉球庭園都市と融合した施設デザインを提案したい。それが私たちの思いです。常に環境と施設がある関係性を示し、人を惹き付け、巻き込み、集まるそういう場を創ることを目指しています。公園内施設として、カフェやレストラン、ヨガ・スタジオをデザインした経験もあります。場、環境が持つ特質を読み解き、そこに馴染むかあるいはそこで際立つか、環境との関係性を考えながら、エリアをつくっていく必然があるかと思います。塚のような小山はこの公園のシンボルであり、周辺環境を見渡せる展望スポットでもあります。この地形、ランドスケープを生かして、琉球庭園都市を俯瞰するようなテラスを創れたらとご提案します。



(発表7) トイレ汚水を循環再利用する自己完結型水土浄化システム

合同会社やんばる彩葉 仲宗根さと子氏

トイレ汚水を浄化してトイレ洗浄水として再利用するシステム(浄化装置)を提案します。土壌が持つ浄化作用を利用して再生された水は修景用水基準をクリアしたきれいな水です。トイレ洗浄水は100%再利用、余った再生水は清掃や散水に利用できる他、河川放流・地下浸透しても問題ありません。

上下水道を必要としない自己完結型のシステムであるため、災害等で断水になった場合もトイレが使えます。また動力を太陽光・風力等の自然エネルギーで賄うことで停電時にも稼働することができます。

2~12t 処理の装置で1日400~2400回分のトイレ利用に対応し、継続して毎日使うことができます。

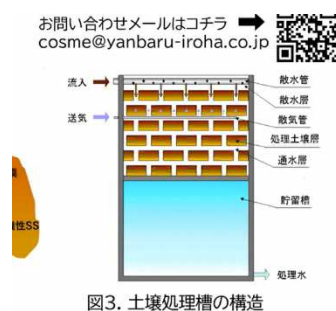


図3. 土壌処理槽の構造

による土壌内への送気を行い、
微生物の活動しやすい環境を作る工夫
能力3,000L/m³(トイレ汚水の場合)

